
「普通の日々が終わる *完結編*」

お星さん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「普通の日々が終わる * 完結編*」

【コード】

N2667U

【作者名】

お星さん

【あらすじ】

「普通の日々が終わる * 後編*3」の続きです。

(前書き)

「普通の日々が終わる *後編*3」の続きです。
なんかストーリーが変です。

俺の目の前で真っ赤な血が飛び散った。

それは、ユウナの血だった。俺は反射的に声を出した。

「ユウナアア！」

ユウナはかなりの銃弾を浴びていた、服が真っ赤に染まるほど。

そして殺人兵器は凄く速さで逃げていった。

ユウナは今にも死にそうな、かすれた声で言った

「すまな…い、私は…お前を守ると言ったのに守れなかった、奴等からどうか逃げきってくれ。」

そう言っただけでユウナは銃とマガジンを渡した。

俺は一週間、生き延びると心に誓った。

そう、それは誓ったその時だった。何故か後ろから声がユウナの聞こえた。

「システムにリンク完了、システムに元に自己修復開始します。」

俺は今まで気づかなかったのだ、ユウナが機械だった事を。

それにあの感じだと、ユウナは自分の事を機械だとは思っていなかったみたいだ。

「自己修復完了…システムインストール開始…インストール終了。操作をシンに移します。」

俺…？確かにシンって言ったはず。

「シン！聞こえるか？」

「聞こえるよ、君だれなんだ？」

「俺は未来のお前だ。」

未来の俺？と、いう事は俺がユウナを作って過去の俺に送ったのか！？

(後書き)

読んでもらいありがとうございます。
次が最後です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2667u/>

「普通の日々が終わる *完結編*」

2011年10月9日05時13分発行